

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	東書	書名	どきどき わくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへ ジャンプ 新しい 生活 下
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、あんぜん、くらし、あいさつ、きもちの伝え方などが明記された「かつどうべんりてちょう」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、問いかけから学習をスタートし、子どもたちが思考する活動例が示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、ものや人と関わることで感じたことや発見したことを大切にして、これからの生活に見通しをもつ題材が提示されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、高齢者と関わる姿や外国人が掲載されていて、社会には多様な人々がいることを捉えられる内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、社会の一員として誰とでも仲良く生活できるよう「かつどうべんりてちょう」に具体例が示されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで働く人とふれあう活動例が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の冒頭に「？」ではじまる課題を設定している。 □ 他教科との関連として、具体的なつながりの例をページ右端や関連マークで各教科と生活科で往還できるよう、設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、特に対話による交流について具体的に掲載している。上巻では個のつぶやきが例示され、下巻ではつながりのある発言が例示されている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、けん玉など昔から伝わる文化や古くから受け継がれている伝統行事や遊びなどを例示している。 □ 体験活動の充実に関して、「ポケット図鑑」や「やってみよう」のページで、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じられるよう構成されている。 □ 就学前との円滑な接続について、「幼児期までに育てほしい姿」が掲載され、子どもの実現状況をみとる共通の物差しとして使用できる構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、ICT機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して交流したり発信したりする学習活動の様子が掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、観察記録カード(みつけたよカード)の書き方を詳しく例示したり、表現作品が掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、友達と交流する場面のイラストの吹き出しには解決策のヒントが書かれており、深い学びにつながる構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、イラストを用い、季節を比較した気付きやリード文と会話文により気付きを引き出す構成となっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、障がいのある方の写真や挿絵が掲載されている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、「もっとよく動く」という目標をもった活動の中で「どうしたらいいのかな？」と投げかけることで、「試す」活動へとつなげている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい せいかつ 上 なかよし たのしい せいかつ 下 はっけん
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、生活上必要な習慣や技能が楽しみながら学べるよう、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どものイラストの会話に投げかけや気付きにつながる言葉が使われている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、単元の終末ページにイラストと吹き出しで、生活を豊かにしようとする具体の姿を取り上げている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、うさぎやモルモットなどの飼育を通して命のあたたかさを感じることができるような内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、下巻末「がくしゅうどうぐばこ」に「せかいのなかま」の項目を設け、世界の子どもの姿や挨拶などの具体例が示されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、働く人との交流や取材・まとめ・発表など一連の学習活動を通して、地域の働く人と積極的に関わろうとする内容になっている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の導入ページで、見開きの大きな写真を掲載し、活動への思いや願いが生じるよう設定されている。 □ 他教科との関連として、巻末に「がくしゅうどうぐばこ」が設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、「せいかつことば」を設け、気付きがより深まり、広がるための言葉の例を右端コラムに取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統行事や文化のイラストや写真、昔遊びやおりがみなどの活動が掲載されている。 □ 体験活動の充実に関して、繰り返し身近な社会や自然と関われるよう学習に関連した図鑑が掲載され、例示が随所に示されている。 □ 就学前との円滑な接続について、幼児期に慣れ親しんだ遊びで仲間づくりを進めることや安心して新たな環境になじめるような内容を上巻巻頭に取り上げている。 □ 情報活用能力の育成に関して、学習活動の例示の中に伝達活動やICT機器について掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」と対応するマークが記載され、確認しながら学習を進めることができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、本時の活動のめあてが各ページの「風船の絵」に書かれており、見通しをもって学習を進められるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、ズームや並列した写真掲載などで、四季の移り変わりの気付きを引き出すページ構成となっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、関わる対象が明確となり、身近な事物や人を捉えるために、友達や家族の写真が掲載されている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、おもちゃづくりから発見したことや工夫したことを交流することで、次の活動で、「試す」「見通す」などの場面につながる構成となっている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	学図	書名	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、ものの作り方や植物の育て方などを掲載した「ものしりノート」が巻末の図鑑を活用しながら見られるように設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、おもちゃをもっとパワーアップさせるために試行錯誤を繰り返すなど、子どもに考えさせる活動が例示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各大単元を4つの段階に区分し、4つ目にやってきて思ったことなどは何かを考える題材が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、体の不自由な人の生活の様子や高齢者との交流の写真が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、写真や挿絵に外国につながりのある子を登場させたり、外国語が併記されている看板を掲載し、異文化にふれる内容が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで働く人と関わる活動が2段階の学びで構成されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「他者との考えの交流」に関連して、個々の活動の後にペアやグループ、全体で考えを共有する場面を取り上げている。 □ 他教科との関連として、国語科などとの関連が図られた作文や手紙などの学習の展開が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、発達段階に合わせて、「レポートの作成」に関連した多様な方法を取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、全国各地や生活の中で根付く伝統に関する記載があり、自分との比較を促す構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、記録やもの作りなどの活動の補助となる「ものしりノート」や、巻末の生活科で身に付けたい資質・能力を「学び方図かん」が設けられている。 □ 就学前との円滑な接続について、上巻巻頭の「がっこうだいすき」では、児童が安心して学校生活を始められるよう、登校から下校までの1日の生活の様子を絵で示している。 □ 情報活用能力の育成に関して、QRコードなど情報活用する方法についてや学習の中で活用できるものが記載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、「ものしりノート」で記録カードの書き方、巻末の「学び方図かん」で作文などの書き方のポイントが詳しく示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、単元毎に4段階の学習展開やそれぞれの活動の視点が持ちやすい投げかけが表示されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、低学年の児童にも視覚的に分かりやすいように絵や写真が掲載されている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、視覚にとらえやすく、自分事として物を感じとれる構成となっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、分析的に考える(見つける、比べる)活動や創造的に考える(試す、見通す)活動を絵や吹き出しで表現している。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で、「この教科書は、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 □ 「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	教出	書名	せいかつ上 みんな なかよし せいかつ下 なかよし ひろがれ
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元ごとのコラム「やくそく」や、巻末の「学びのポケット」で、「生活上必要な技能」が取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どもと同じ目線で一緒に学習するキャラクターが設定され、児童が考える働きかけがされている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、自分ができるようになったことなどを書くことで、自信をもってこれからの学びに向かうための活動例が示されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、まちの中のバリアフリーを写真やイラストで取り上げている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、まちで働く人に迫る活動を単元化し取り上げている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「振り返り」に関連して、単元最後の「なにをかんだかな」で、自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されている。 □ 他教科との関連として、「コラムはってん」の「社会科へのまど」「理科へのまど」で、生活科の学びの中学年以降へのつながりを示している。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、板書例や思考ツールを取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が、全国にわたり地名と写真とともに取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、各単元巻頭の児童の大きな写真や吹き出し、先生の投げかけなど、単元を通し様々な活動や物事を紹介している。 □ 就学前との円滑な接続について、スタートカリキュラムで、幼稚園で身に付けた資質・能力を小学校で発揮する姿が対比して示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、各単元はじめには、「まなびのポケット」で確認しながら学習を進めることができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、「まんぞくはしご」で、自分の学習の振り返りをするすることで、深い学びにつながる構成になっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、巻末の「学びのポケット」では、比較できるように写真構成がされている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、身近な事象と繰り返しかわり、子どもに考えさせるような内容が取り上げられている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、ページ右上のヒント欄で見つける、比べる、例える、試す、見通す、予測するなどの学習活動を繰り返し提示している。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	信教	書名	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、課題の解決に必要な知識や技能の習得につながるように、「詩」の内容や子どもの吹き出しに「疑問」の投げかけが行われている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、現在と比較して考えたり、写真やイラストで多様な表現方法が紹介されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、児童が見通しをもてるような活動例を紹介している。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、上下巻を通してヤギを継続飼育する内容構成とし、動植物との継続的にかかわる活動が取り上げられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、畑・栽培・調理・食の流れを実体験を通して感じる内容となっている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、四季を通して、自然や動植物、地域の人と繰り返し関わる直接体験が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「問題発見・問題解決」について気付いたことから思いや願いをもって活動へ取り組む内容構成となっている。 □ 他教科との関連等として、国語科と関連した「たんぼぼのふしぎ」という題材が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、詩を掲載することで生活と言葉がつながるような構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、季節ごとの年中行事や季節に関連する歌などを掲載している。 □ 体験活動の充実に関して、身近な生活での体験や地域での直接体験が取り上げられている。 □ 就学前との円滑な接続について、巻頭で家族や登校直前の写真、扉絵で学校生活の様子に触れることで、希望を持ち登校できるような構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、ICT機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して発信したりする学習活動の様子が掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、絵本を読み進めるように単元が構成されており、活動のつながりが分かりやすく設定されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、絵本形式で地域住民の生活に密着した写真・イラストなどで、自分事として学習を進める視点が持てる構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、絵や写真とともに詩を掲載し、詩からも気付きを引き出す内容の構成になっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、身近な風景の写真と行事の写真を例に挙げ、自分との関わりで捉える内容になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、見開きの絵や扉絵で学習意欲を高めたり、見通しをもてる構成になっている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 「この教科書は、必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と表記されている。 □ 「必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	光村	書名	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、着目・考えさせたいポイントが、ページの下や横に、「どうすれば」というコーナーとして取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した「知識・技能」を発展させる投げかけが随所にあり、巻末の「ひろがるせいかつじてん」にもまとめて取り上げている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、シールを用いて1年間でできるようになったことを振り返り、今後の自分にできることを探す題材が設定されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、自分ができるようになったことを振り返り、友だちのことにも目を向け、お互いのよさを伝え合えられるような内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあいを通して、地域への親しみや愛着がもてるよう活動が設定されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、自然と関わる体験活動への意欲を高めるため、上下巻「きせつのおくりもの」で、定位置の季節の写真などで四季の変化を示している。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、各単元はじめの、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で、活動の見通しをもち、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるように配慮している。 □ 他教科との関連として、巻末に「ひろがるせいかつじてん」が設けられている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、言語活動を用いて学びを深めるための伝えることのポイントが示されており、能力を高めやすい構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化・行事に関し、いろいろな都道府県の写真やイラストが掲載されていて、各地の文化に目を向けるような構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、体験を広げ、繰り返し対象と関わり、気付きを自覚したり、関連付けたり、視点を変えて捉えたりすることで、気付きの質を高め、深い学びとなるように、「もっとやってみよう」を設定している。 □ 就学前との円滑な接続について、「できる。」「やってみよう。」という投げかけで児童のワクワクする気持ちと期待感を最大限に引き出す「スタートカリキュラム」ページを設けている。 □ 情報活用能力の育成に関して、各単元、情報を活用する活動する場面を随所に設け、その様子を絵や写真等で示し、情報活用能力を育成できるよう促している。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫について、子どもが日常使う言葉を吹き出しで示され、写真やイラストが掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、上下巻とも3段階での学習展開と単元ごとの振り返りが充実している。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、上下巻を通して、茶色の枠で気付きの視点を視覚的に選べる構成になっている。 □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、比較して考える写真などで、気付きの様子が関連付けられるようにしている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、ポイントとなる視点を10文字とイラストで複数掲載している。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「特設コーナーの見出しなどには見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。 □ 「児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「がくしゅうずかん」が複数掲載されており、アドバイスや日常生活に必要な情報が取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、単元の中での、毎時間のつながりを意識した指導計画が例示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各大単元の終末ページに、学習を通して学んだことを、さらに深く学ぼうとしたり、生活に生かしたりしようとする姿を取り上げている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、イラストで車いすを使用する児童が設定され、ともにいきいきと活動している様子を取り上げている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために巻末の「がくしゅうずかん」には、国際化につながる内容が掲載されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、働く人への親しみや愛着がもてるように地域の働く人とふれ合ったり、インタビューする活動を取り入れている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「見通しと振り返り」に関連して、各単元を3段階で構成し、生活科の学びのプロセスを分かりやすく取り上げている。 □ 他教科との関連として、巻末に「がくしゅうずかん」が設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、考えを深める話し方についてまとめたページがあり、児童が言語能力を習得しやすい構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、学習に関連づけた地域の行事・文化の写真を掲載し、自分たちの身の回りにも目を向ける構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、「わくわくぼっくす」が設定され、児童が自ら体験活動をするよう促している。 □ 就学前との円滑な接続について、巻頭ページに幼・保の写真が複数使用されていて自己の成長を想起しやすく、学校間の接続にもつながりやすい構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、学習のまとめ、表現について情報機器の使用に関する項目があり、情報活用能力につながる構成となっている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、単元名や各欄などが定位置への配置、マークの統一がされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、学んだことを活用する欄があり、生きた知識・技能につながる構成になっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、小単元名が具体的にめあてをもちやすく、いぬや鳥のキャラクターが気付きのポイントを示している。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、学んだことをより広げていく構成になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、身近な材料が使われ、どのように遊べばよいか試したり、工夫したりすることで、見通しももてるようになっている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 □ 「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	日文	書名	わたしとせいかつ 上 みんななかよし わたしとせいかつ 下 ふれあいだいすき
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、見開きページの右端や図鑑ページで、関連する知識を習得することができるようになっている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、比べながら考えるための、山折りを使った写真提示や比較対象物を並べた写真提示がされている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学んだことを活かしたり、発展させたりするための投げかけがあり、活動の継続性を促す構成となっている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童の成長に関わってきた人や体の不自由な人の生活に視点を挙げた写真、イラストを掲載することで児童の意識を引きつける構成となっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、育てた野菜をおいしく食べるための工夫や大豆を使った料理で地域の食についての題材が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域に愛着や親しみをもつために、公共施設に出かけたり、働く人に取材したりし発表したりする単元が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元ごとの終末ページには、「ふりかえるつなげる」が設定されている。 □ 他教科との関連として、巻末に「ちえとわざのたからばこ」が設けられている <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、上下巻ともに伝えることを重視した単元が設定されていて、言語能力の育成につながる構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化や地域の行事、昔から伝わる遊び等に関心をもって関わられるような学習活動や「伝統文化や郷土の特色」に関連した、写真、吹き出しなどが示されている。 □ 体験活動の充実に関して、学習したことを広げたり、関連づけて考えたりできるページがあり、体験活動を深められるような構成となっている。 □ 就学前との円滑な接続について、上巻頭「いちねんせいになったら」では、学校の日、身の回りの安全などが写真や絵と共に示されていて、安心して学校生活をスタートできるよう配慮されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、板書、話し合い活動、まとめの表現作品、発表の場面などの例が具体的に複数示されている。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫について、観察のコツや各種技能のまとめが巻中と巻末に記載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、「ポケットずかん」が適所に設けられており、気付いたことをすぐに調べ理解が深まるよう設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、比較して考える写真などで、気付きの様子が関連付けられるようにしている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、高齢者の写真や挿絵を意図的に使用し、年少期から身近な人々としてとらえる構成になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、様々な「ページたんけんたい」が登場し、気付きにつながると同時に、先を見通した活動のヒントになっている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と、表記されている。 □ 「ユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《生活（生活）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	あんぜん、くらし、あいさつ、きもちの伝え方などが明記された「かつどうべんりてちょう」が上下に設けられている。
大日本	生活上必要な習慣や技能が楽しみながら学べるよう、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」には、児童にとって身近な素材が掲載されている。
学図	ものの作り方や植物や生き物の育て方などが掲載されている「ものしりノート」に、巻末の図鑑を活用しながら見られるように設定されている。また「ちゅうい」という大切なことも書かれてあり、自分の中で活かしていける知識・技能につながる。
教出	単元ごとのコラム「やくそく」や、巻末の「学びのポケット」で、「生活上必要な技能」が取り上げられている。また、「えがおのひみつたんけんたい」、「しごとにチャレンジしよう」、「まちが大すきたんけんたい」とは別に、大単元として取り上げられている。
信教	課題の解決に必要な知識や技能の習得につながるように、「詩」の内容や子どもの吹き出しに「疑問」の投げかけが行われている。
光村	着目・考えさせたいポイントが、ページの下や横に、「どうすれば」というコーナーとして取り上げられている。また、「生活上必要な習慣」に関連して、巻末の「ひろがるせいかつじてん」でまとめて分かりやすく取り上げている。
啓林館	「がくしゅうずかん」が複数掲載されており、アドバイスや日常生活に必要な情報が取り上げられている。
日文	見開きページの右端や図鑑ページで、関連する知識を習得することができるようになっている。また、四季について学んだことを生かした遊びを考えたり、他の季節と比べたりすることができるようになっている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	問いかけから学習をスタートし、子どもたちが思考する活動例が示されている。子どもたちが思考する場面が保障され、繰り返されている。単元ごとに「見つけたよカード」も掲載されており、ほかの表現方法も複数あり、自分に合った表現方法を選択できる。
大日本	子どものイラストの会話に投げかけや気付きにつながる言葉が使われている。上巻では「なかよし」、下巻では「はっけん」を全単元名に共通してつけ、一人ひとりが主体的に活動するようにしている。
学図	おもちゃをもっとパワーアップさせるために試行錯誤を繰り返す活動の例示や、見たり聞いたりしながら学ぶ方法を詳しく解説したページなどがあり、子どもの思考学習が取り上げられている。
教出	子どもと同じ目線で一緒に学習するキャラクターが設定され、児童が考える働きかけがされている。また、教科書見開きの右欄に思考・判断・表現に働きかける投げかけがある。
信教	現在と比較して考えたり、生活や他教科との関連を生かした表現方法、作品を写真やイラストで多様な表現方法が具体的に紹介されている。
光村	習得した「知識・技能」を発展させる投げかけが教科書に随所であり、また、巻末の「ひろがるせいかつじてん」にまとめて取り上げている。
啓林館	単元の中での、毎時間のつながりを意識した指導計画が例示されている。また、「くらべる」、「ためす」、「くふうする」ことについてイラストや写真で紹介している。
日文	比べながら考えるための、山折りを使った写真提示や比較対象物を並べた写真提示がされている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	ものや人と関わることで感じてきたことや発見したこと大切にして、これからの生活に見通しをもつ題材が提示されている。
大日本	単元の終末ページにイラストと吹き出しで具体の姿として取り上げている。
学図	各大単元を4つの段階に区分し、1つ目を「どきどき」、2つ目を「いきいき」、3つ目を「ふむふむ」、4つ目を「にこにこ」として、「やってきて思ったこと、もっとやってみたいことはなにか」という問いかけが掲載されている。
教出	これまでの自分の成長をふりかえり、できるようになったことをまとめ、自分に拍手したいことを書くことで、自信をもってこれからの人生に向かっていく活動例を示されている。また、巻末が次の学年につながる構成となっている。
信教	児童が見通しをもてるような活動例を紹介することで、「やってみたい。」という気持ちを高める構成となっている。
光村	単元末に自分自身の振り返りをシールに書いて貼ったり、1年間の学びをふりかえり、できるようになったことを実感するとともに、これからの自分には何ができるのかできることを探して行動しようと思うことができる。
啓林館	各大単元の終末ページに、学習を通して学んだことを、さらに深く学ぼうとしたり、生活に生かしたりしようとする姿を取り上げている。
日文	学んだことを活かしたり、発展させたりするような投げかけがあることで活動の継続性を促す構成となっている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	生活上での高齢者と関わる姿やイラストで外国人が掲載されていて、社会には多様な人々がいることを捉えられる構成となっている。
大日本	「いのちの大切さ」に関連して、飼育を通して命のあたたかさを感じとることができるよう、小動物を取り上げている。(学校図書と光村図書と大日本図書)
学図	体の不自由な人の生活の様子などや高齢者との交流の写真が複数使われていて、共生につながる構成となっている。
教出	「共生」に関連して、まちの中のバリアフリーや学校、施設を写真やイラストで取り上げている。また、写真やイラストに登場する人物の中に、車いすの児童や外国につながる児童も一緒に取り上げている。
信教	「いのちの大切さ」について、上下巻を通してヤギを継続飼育する内容構成とし、動植物との継続的なかわりを内容の中核としている。
光村	自分ができるようになったことを振り返り、友だちのことにも目を向け、お互いのよさを伝え合うことで、他者を思いやることができる。
啓林館	「共生」に関連して、イラストで車いすを使用する児童が設定され、ともにいきいきと活動している様子を取り上げている。
日文	子どもたちの成長に関わってきた人や体の不自由な人の生活に視点を挙げた写真、イラストを掲載することで子供の意識を引きつける構成となっている。

②	[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	身近な様々な人たちと、互いの関係を一層豊かにし、社会の一員として誰とでも仲良く生活できるコミュニケーション能力を育くめるように、上下巻末の「かつどうべんりてちょう」に、具体例が示されている。	
大日本	下巻末「がくしゅうどうぐばこ」には、「せかいのなかま」の項目を設け、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために子どもの姿や挨拶などの具体例が示されている。	
学図	写真や挿絵に外国につながりのある子を登場させたり、外国語が併記されている看板を掲載したりして、広い視野を持って異文化を理解する内容が設定されている。	
教出	「情報化」に関連して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。	
信教	「食育」に関連して、畑・栽培・調理・食の流れを実体験を通して感じる内容となっている。	
光村	地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあい体験を持ち、地域への親しみや愛着がもてるよう身近な地域と関わる活動が、二段階の学びで構成されている。	
啓林館	巻末の「がくしゅうずかん」には、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために、「せかいとつながろう」という題名で、国際化につながる内容が掲載されている。	
日文	育てた野菜をおいしく食べるための工夫や大豆を使った料理で地域の食についての題材が掲載されている。	
③	[社会とかがわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあう体験から、2つの単元で身近な地域と関わる活動例が取り上げられ、地域への親しみや愛着がもてるよう掲載されている。	
大日本	働く人との交流や取材・まとめ・発表など一連の学習活動を通して、彼らが自分たちの生活を支えていることに気付くとともに、地域の働く人に積極的に関わろうとする気持ちももてるようになっていく。	
学図	身近な地域と関わる活動が、2段階の学びで構成されており、地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあい体験を持たせ、地域への親しみや愛着がもてるようになっていく。	
教出	「働くことの大切さ」に関連して、まちで働く人に迫る活動を単元化し取り上げている。	
信教	四季を通して、自然や動植物、家族や友だち、地域の人と繰り返し関わり、地域の良さを知り、地域の一員として思いをもち行動できるような直接体験が設定されている。	
光村	上下巻「きせつのおくりもの」で、定位置の季節の写真(なかよしの木)や町の様子、自然の様子(植物・昆虫など)の絵で、日本の四季の変化を示し、自然と関わる体験活動への意欲を高めるよう表記されている。	
啓林館	地域の働く人とふれ合ったり、インタビューする活動を取り入れ、働く人への親しみや愛着とともに、憧れ、夢や希望をもち、児童が意欲をもって生活することができるよう工夫されている。	
日文	公共施設に出かけたり、働く人に取材したりし発表したりする活動を通して、地域に愛着や親しみを持ち、適切に接したり安全に生活したりできるよう単元が設定されている。	

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	「見通しと振り返り」に関連して、上下巻で子どもの発達段階に応じた内容を取り上げている。また、単元の冒頭に「？」ではじまる課題を設定している。
大日本	主体的な学びへのいざないとして、単元の導入ページで、見開きの大きな写真を掲載し、活動への思いや願いが生じるよう設定されている。
学図	「他者との考えの交流」に関連して、個々の活動の後にペアやグループ、全体で考えを共有する場面をイラストで取り上げている。
教出	振り返りの活動が重視された構成になっており、単元最後の振り返り「なにをかんだかな」で、自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されている。 「まんぞくはしご」で自己評価したことを視覚化できるようになっている。
信教	「問題発見・問題解決」について、多様な内容がつながる内容構成となっている。単元初めのページでは、学習活動を示唆する写真や絵が大きく掲載され、気付いたことから思いや願いをもって活動へ取り組む意欲を高められるよう工夫されている。
光村	各単元初めの、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で、活動の見通しをもち、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるように配慮している。
啓林館	「見通しと振り返り」に関連して、各単元を3段階で構成し、生活科の学びのプロセスを分かりやすく取り上げている。 あわせて、めくり言葉をページ右横に挿入したり、「わくわくボックス」を各大単元の導入ページに取り上げている。
日文	単元ごとの終末ページには、「ふりかえるつなげる」が設定されており、活動を振り返り、自分の成長に気付くとともに、自分の生活や学習につなげ広げ、深い学びとなるよう工夫されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	「他教科との学びのつながり」に関連して、具体的なつながりの例をページ右端に掲載したり、関連マークを掲載したりして、資質・能力が各教科と生活科で往還できるよう配慮している。
大日本	生活科の学習が今後につながるように「がくしゅうどうぐばこ」が巻末に設けられている。
学図	国語科などとの関連が図られた作文や手紙などの学習展開が示されるなど、他教科との関連が図られた学習が設定されている。
教出	生活科の学びの中学年以降へのつながりを示し、生活科最後の学習として、「楽しかったね生活科」を設定し、社会科や理科へのつながりを示している。
信教	他教科との関連として、国語科や社会科、理科とのつながりをイラストや写真で示している。
光村	他教科との関連として、巻末の「ひろがるせいかつじてん」で他教科や日常生活へ生かすことをイラスト付きでまとめている。
啓林館	他教科との関連として、巻末に「がくしゅうずかん」が設けられており、「しらべよう」など他教科で活用する内容をまとめて示している。
日文	他教科との関連として、巻末に「ちえとわざのたからばこ」が設けられている。他教科や日常生活へ生かすことをイラスト付きでまとめている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「言語活動の充実」に関連して、特に対話による交流について具体的に例示している。上では、発表の際、個のつぶやきが例示され、下では、つながりのある発言が例示されている。
大日本	「せいかつことば」を設け、気付きがより深まり、広がるための具体例を右端コラムに取り上げている。
学図	発達段階に合わせて、「レポートの作成」に関連した多様な方法を取り上げたり、話し方・聞き方のポイントを示したりと、表現や交流に役立つ構成となっている。
教出	「立場や根拠を明確にして議論するなどの言語活動の充実」に関連して、板書例や思考ツールを複数取り上げている。
信教	詩を掲載することで生活と言葉がつながるような構成となっている。
光村	言語活動を用いて学びを深めるための伝えることのポイントが示されており、能力を高めやすい構成となっている。
啓林館	考えを深める話し方についてまとめたページがあり、子供が言語能力を習得しやすい構成となっている。国語科や書写で学習したことも生かした多様な表現物を取り上げている。
日文	上下巻ともに伝えることを重視した単元が設定されていて、言語能力の育成につながる構成となっている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	昔から伝わる文化や古くから受け継がれている伝統行事や風習の写真、昔から伝わる遊びや草花を使った遊びなどを例示し、自分の生活を想起したり、郷土愛を育めたりする構成となっている。
大日本	見開きページ右端やページ内に伝統行事や文化のイラストや写真、昔遊びやおりがみなどの活動が掲載されていて、目を向けやすい構成となっている。
学図	全国各地や生活の中で根付く伝統に関する記載があり、自分との比較を促す構成となっている。
教出	地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が、全国にわたり地名と写真とともに複数取り上げられている。
信教	「伝統や文化に関する教育」について、季節ごとの年中行事や季節に関連する歌などを掲載し、生活の中で年中行事などを感じる心に触れる内容を掲載している。
光村	伝統文化・行事に関し、いろいろな都道府県の写真やイラストが掲載されていて、日本の文化に目を向けるような構成となっている。
啓林館	学習に関連づけた地域の行事・文化の写真に掲載し、自分たちの身の回りにも目を向ける構成となっている。
日文	伝統文化や地域の行事、昔から伝わる遊び等に関心をもって関わられるような学習活動や「伝統文化や郷土の特色」に関連した、写真、吹き出しなどが示されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	活動の補助となる「○○図かん」や活動を広げる「やってみよう」で、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じ、これらを参考に体験活動がより充実するよう配慮されている。
大日本	繰り返し身近な社会や自然と関わられるよう学習に関連した図鑑が掲載され、繰り返し試行錯誤できるよう、例が複数示されている。
学図	記録やもの作りなどの活動の補助となる「ものしりノート」や、巻末の生活科で身に付けたい資質・能力を「学び方図かん」で、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じ、これらを参考に体験活動がより充実するよう配慮されている。
教出	各単元巻頭の児童の大きな写真や吹き出しや先生の投げかけ等、単元を通し様々な活動や物事を紹介する写真や絵、クイズ形式の写真、「～図鑑」などで、児童が自分事として活動を捉えられるようになっている。
信教	身近な生活での体験や地域での活動（地域の自然や季節の行事など）を大切にできるよう、直接体験を通じた活動が行えるよう工夫されている。
光村	体験を広げ、繰り返し対象と関わり、気付きを自覚したり、関連付けたり、視点を変えて捉えたりすることで、気付きの質を高め、深い学びとなるように、「もっとやってみよう」を設定している。
啓林館	「体験活動の充実」に関連して、QRコンテンツを複数掲載し、学習意欲を高めるとともに、家庭で主体的に学習する際にも参考となるようにしている。
日文	学習したことを広げたり、関連づけて考えたりできるページがあり、体験活動を深められるような構成となっている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	巻頭が冊子になっており、円滑な接続につながる工夫と教師への参考となる「幼児期までに育てほしい姿」が掲載され、子供をみとる共通の物差しとして使用できる構成となっている。
大日本	幼児期に慣れ親しんだ遊びで仲間づくりを進めることや体験を想起させる投げかけにより安心して新たな環境になじめるような内容を上巻巻頭に取り上げている。
学図	巻頭に特設ページを設定し、校種間の接続が意識できる構成となっている。
教出	上はじめのスタートカリキュラムでは、幼稚園で身に付けた資質・能力を小学校で発揮する姿が対比して表現されており、幼稚園保育園と学校のつながりを示している。
信教	巻頭で家族や登校直前の写真、扉絵で学校生活の様子に触れることで、希望を持ち登校できるような構成となっている。
光村	「できる。」、「やってみよう。」という投げかけで児童のワクワクする気持ちと期待感を最大限に引き出す「スタートカリキュラム」ページを設けている。
啓林館	巻頭ページに幼・保の写真が複数使用されていて自己の成長を想起しやすく、学校間の接続にもつながりやすい構成となっている。
日文	上巻頭「いちねんせいになったら」では、学校の日、学習の様子、授業中のルール、身の回りの安全などが写真や絵と共に示されていて、安心して学校生活をスタートできるよう配慮されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	I C T機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して交流したり発信したりする学習活動の様子が例示されており、情報活用能力が育成できるように配慮されている。
大日本	学習活動の例示の中に伝達活動やI C T機器についての記載があり、情報機器の使用を意識できる構成となっている。
学図	情報活用の方法についての記載と学習の補助をするための工夫がある構成となっている。
教出	上下巻末の「まなびのポケット」には、身に付けたい情報活用能力が整理され、まとまっている。
信教	情報活用能力の育成に関して、I C T機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して発信したりする学習活動の様子が掲載されている。
光村	各単元、情報を活用する活動する場面を随所に設け、その様子を絵や写真等で示し、情報活用能力を育成できるよう促している。
啓林館	学習のまとめ、表現について情報機器の使用に関する項目があり、情報活用能力につながる構成となっている。
日文	板書、話し合い活動、まとめの表現作品、発表の場面などの例が具体的に複数示している。巻末「ちえとわざのたからばこ」に身に付けたい情報活用能力が整理され示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	観察記録カード（みつけたよカード）の書き方を詳しく例示し、表現力の基礎や、科学的な見方・考え方の基礎を育むよう配慮されている。 （振り返り）カードや、表現作品が複数掲載されている。
大日本	身に付けたい資質・能力について、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」と対応するマークが記載されており、確認しながら学習を進めることができるよう配慮されている。
学図	「ものしりノート」で記録カードの書き方、巻末の「学び方図かん」で（上）カード（下）作文・手紙が、大きく表現作品を掲載するとともに、書き方のポイントが詳しく示されている。
教出	各単元はじめには、その単元で身に付けたい資質・能力と「まなびのポケット」の対応が記され、「まなびのポケット」で確認しながら学習を進めることができるよう配慮されている。
信教	絵本を読み進めるように単元が構成されており、活動のつながりが分かりやすいような構成がされている。
光村	上下巻ともイラストや写真が見やすく大きく、書かれている言葉も、端的で、分かりやすい。
啓林館	単元名や各欄などが定位置への配置され、学習活動を示す統一のマークが用いられている。学習活動ごとにページが色分けされている。
日文	観察のコツや各種技能のまとめが巻中と巻末に記載されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	友達と交流する吹き出しには解決策のヒントが書かれており、深い学びにつながる構成となっている。「ポケットずかん」を持って観察することで、気付きの質を高めることができる工夫がされている。
大日本	各ページの「風船の絵」に書かれたことが、本時の活動のめあてになっており、見通しをもって学習を進められるよう構成されている。
学図	単元毎に4段階の学習展開やそれぞれの活動の視点が持ちやすい投げかけがあり、子供が把握しやすい構成となっている。
教出	「まんぞくはしご」で、自分の学習の振り返りをするすることで、主体的な学びにつながり、それをくり返していくことで、深い学びにつながっていく。
信教	絵本形式で地域住民の生活に密着した写真・イラストなどで、自分事として学習を進める視点が持てる構成となっている。
光村	上下巻とも3段階での学習展開と単元ごとの振り返りが充実している。
啓林館	学んだことを活用する欄があり、生きた知識・技能につながる構成になっている。
日文	「ポケットずかん」が適所に設けられており、気付いたことをすぐに調べ理解が深まるよう設定されている。

⑩ 知識及び技能の基礎としての「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材として、工夫や配慮がなされているか。	
東書	イラストを用い、年間を通した比較による気付きを生み出す構成となっている。リード文と会話文により気付きを引き出す構成となっている。
大日本	写真掲示の工夫により、気付きを引き出すページ構成となっている。 (並列、白黒、ズーム) 巻末「がくしゅうどうぐばこ」に、生活上必要な技能が複数提示されている。
学図	低学年の児童にも視覚的に分かりやすいよう、絵や写真が大きく掲載されている。
教出	左ページ上部にヒント、右ページ上部に巻末の「学びのポケット」がわかりやすい。比較できるように写真構成がされている。 右ページに「やくそく」がイラストと文字でわかりやすく示されている。
信教	単元最初のページが大きな写真やイラストで構成され、気付きを引き出す内容になっている。 絵や写真とともに詩を掲載し、詩からも気付きを引き出す内容になっている。
光村	上下巻を通して、茶色の枠で気付きの視点を視覚的に選べる構成になっている。 「どうすれば」のコーナーを特設し、技能や習慣につなげている。
啓林館	いぬや鳥のキャラクターが気付きのポイントとなっている。 小単元名が具体的でめあてをもちやすい。
日文	写真が比較しやすい構成になっている。巻末に技能をまとめる構成になっていて気付きの様子が関連付けられるような写真が載っている。

⑪ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材として、工夫や配慮がなされているか。

東書	インクルーシブな視点を挿絵で表現している。写真や挿絵を効果的に用い、身近な事物をとらえやすい内容構成となっている。
大日本	写真の工夫により、身近な人々や事物をとらえやすくしている。(ともだちがたくさん、地域、家族の写真) かかわる対象が明確となり、子どもがめあてをもちやすくなっている。
学図	視覚にとらえやすい配慮がなされていて、自分事として事物を感じとれる構成となっている。見出しや写真で対象をはっきりとさせ身近な人に注目する内容となっている。
教出	身近な事象と繰り返しかかわり、子どもに考えさせるような内容が取り上げられている。写真に外国の児童も掲載している。
信教	身近な風景の写真と行事の写真を例に挙げかかわりやすい内容になっている。身近な地域の様子が写真とともに表されている。
光村	多様な人とのかかわりを挿絵で表現している。挿絵が工夫されていて、身近な人々や年間を通しての人とのかかわりとらえやすい内容構成である。
啓林館	学んだことをより広げていく構成になっている。自分たちのまちのよさや安心を吹き出しであらわしている。
日文	高齢者の写真や挿絵を意図的に使用。年少期から身近な人々としてとらえる構成になっている。双方向のかかわりを表す写真を載せている。生活の中の気づきを吹き出しのことばで具体的に表現している。

⑫ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、「試す」、「見通す」などの工夫や配慮がなされているか。

東書	「もっとよく動く」という目標をもって、活動できるように、「どうしたらいいのかな?」と、投げかけることでいろいろ試してみたいくなる工夫がされている。繰り返すことで特徴を捉え、先を見通した試行もできるようになる。
大日本	おもちゃづくりから発見したことや工夫したことを交流することで、次の活動で、「試す」「見通す」などの場面につながる。
学図	友達とのやり取りを通して、分析的に考える(見つける、比べる、例える)活動や創造的に考える(試す、見通し)活動を、友達とのやり取りを通して自然に行っている様子を絵や吹き出しで表現している。
教出	ページ右上のヒント欄で見つける、比べる、例える、試す、見通す、予測するなどの学習活動を繰り返し提示している。
信教	見開きの絵や扉絵で学習意欲を高めたり、見通しをもてる構成になっている。
光村	ポイントとなる視点を10文字とイラストで複数掲載している。
啓林館	身近な材料が使われ、どのように遊べばよいか試したり、工夫したりすることで、見通しももてるようになっている。
日文	様々な「ページたんけんたい」が登場し、気づきにつながると同時に、先を見通した活動のヒントになっている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。

東書	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき」や「なつがやってきた」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「どきどきわくわく まちたんけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
大日本	上巻は第1学年を対象として、「みんななかよし」や「なつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「わたしの町はっけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
学図	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき」や「あそびにいこうよ」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちたんけん あの人に会いたいな」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
教出	上巻は第1学年を対象として、「わくわくどきどきしょうがっこう」や「きせつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちが大すきたんけんたい」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
信教	上巻は第1学年を対象として、「うれしいな いちねんせい」や「まぶしい なつ」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「わたしたちがすむ町」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
光村	上巻は第1学年を対象として、「あたらしい いちねんせい」や「あきといっしょに」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちをたんけん 大はっけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
啓林館	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき あいうえお」や「なつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「とび出せ！町のたんけんたい」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
日文	上巻は第1学年を対象として、「いちねんせいになったら」や「きせつとあそぼう」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「町たんけん1-みんなでつかう場しょへ行こう-」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

東書	判型はA4判で、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
大日本	判型はA B判で、「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。
学図	判型はA4判で、「この教科書は、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。
教出	判型はA B判で、「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
信教	判型はA B判で、「この教科書は、必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。
光村	判型はA B判で、「特設コーナーの見出しなどには見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。
啓林館	判型はA B判で、「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。
日文	判型はA B判で、「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と、表記されている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
大日本	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
学図	「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。各単元のマークやページ数が、学習活動ごとに色分けされている。
教出	「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。また、活動の「ヒント」や「やくそく」が、イラストとマークで示されている。
信教	必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。また、本文がすべて縦書きで書かれている。
光村	「児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。また、学習活動が色とマークで区別され、単元ごとにインデックス表示されている。
日文	「ユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、ページの下にマークと色で示している。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	「夏のくらし」の中に、平塚市の「七夕まつり」の写真が掲載されている。
大日本	「つうがくろには あんしん あんぜんがいっぱい」の中に、横須賀市PTA協議会の「こども110番の家」のステッカーの写真が掲載されている。
学図	「まちのきせつ」の冬、「かく地のようす」の中に横浜中華街の「春せつ」の写真が掲載されている。
教出	「見つけたよ すてきなえがお あこがれのしごと」の中に、川崎市消防局の消防士の写真が掲載されている。
光村	「きせつだより」の春の中に、相模原市の「泳げ鯉のぼり相模川」の写真が掲載されている。
日文	ポケット図鑑「町のこともっと知りたい」の中に、川崎市の「こども110番」の看板の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書	大日本	学図	教出
	1・2年	1・2年	1・2年	1・2年
有	有	有	有	
信教	光村	啓林館	日文	
1・2年	1・2年	1・2年	1・2年	
有	有	有	有	

③ 一冊ごとの重量 (g)									
発行者名	総冊数	上	下	3年	4年	5年	6年		
東書	2	378	332						
大日本	2	297	304						
学図	2	351	322						
教出	2	293	292						
信教	2	308	258						
光村	2	333	247						
啓林館	2	324	292						
日文	2	273	266						